

[参考事項]

新技術名： リンゴ園における非選択性殺虫剤散布がナミハダニの発生に及ぼす影響

(平成24～27年)

研究機関名 果樹試験場 総務企画室
担当者 舟山 健

[要約]

リンゴ園では合成ピレスロイド剤散布によって土着カブリダニ類が減少し、ナミハダニが増加する。

[普及対象範囲]

リンゴ栽培地帯

[ねらい]

リンゴ園では各種の殺ダニ剤に対してナミハダニの低感受性個体群が出現しており、生産者は防除対応に非常に苦慮している。しかし、リンゴ園で本種は古くからの重要害虫ではなく、非選択性殺虫剤の合成ピレスロイド剤が使用され始めた1980年代以降に多発生が問題化してきた。カンキツでは合成ピレスロイド剤の散布によって天敵類が減少し、ミカンハダニが多発生することを確認している。そこで、リンゴ園で合成ピレスロイド剤散布が土着カブリダニ類とナミハダニの発生に及ぼす影響を明らかにする。

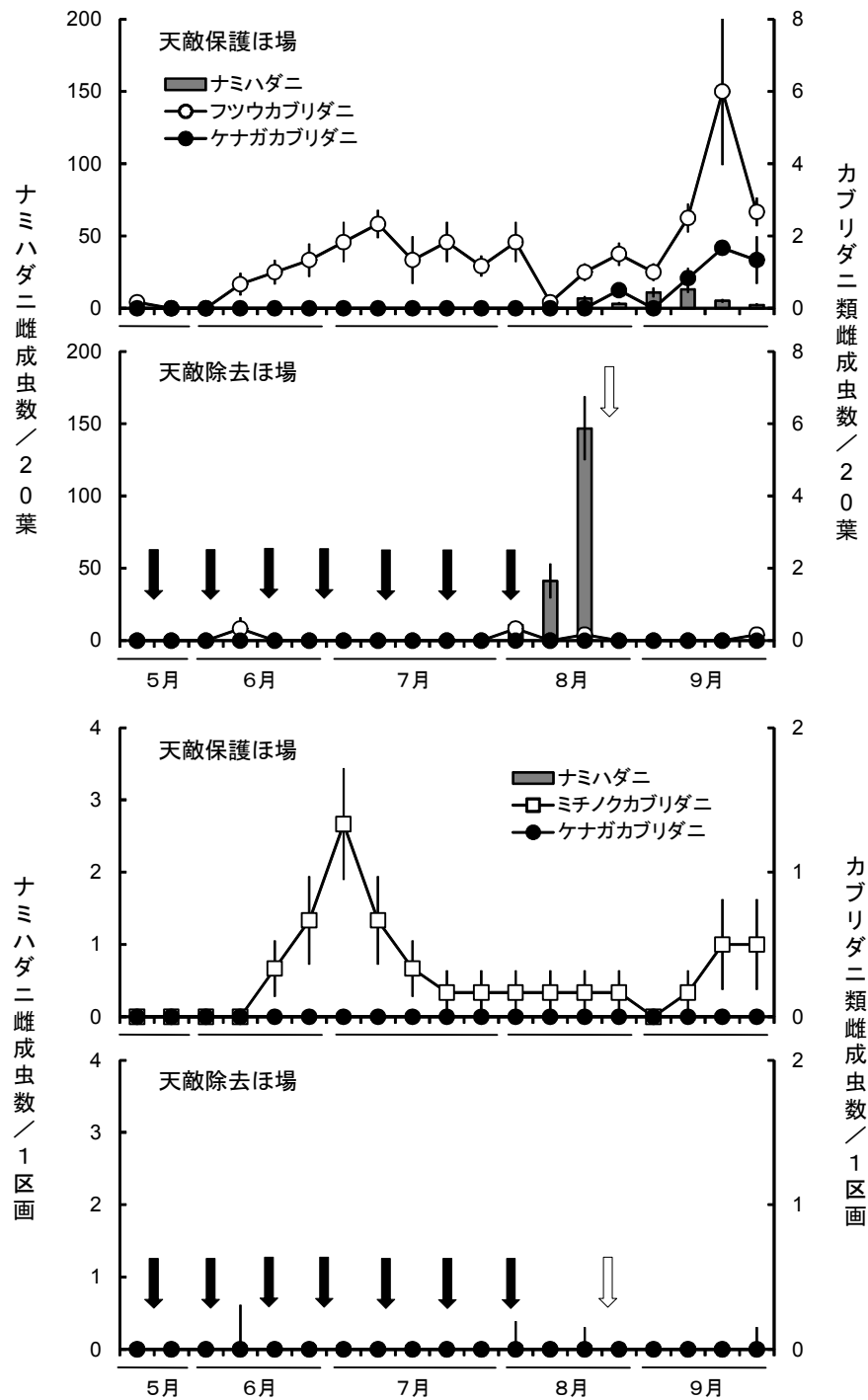
[技術の内容・特徴]

- 1 2012～13年に選択性殺虫剤（IGR剤）を散布した天敵保護ほ場では、リンゴ葉と下草でカブリダニ類が継続して観察され、ナミハダニは8月中旬から9月に確認されたものの、発生数は非常に少ない（図1）。
- 2 2012年は選択性殺虫剤を散布して天敵を保護したが、2013年は合成ピレスロイド剤を連続散布した天敵除去ほ場では、2013年はリンゴ葉と下草でもカブリダニ類はほとんど観察されず、ナミハダニは8月に急増する（図1）。

[成果の活用上の留意点]

- 1 リンゴ園で合成ピレスロイド剤など非選択性殺虫剤の散布を控えれば、ナミハダニは発生しにくくなる。

[具体的なデータ等]



図ー1 2013年の天敵保護ほ場(選択性殺虫剤散布)と天敵除去ほ場[2012年は選択性殺虫剤散布, 2013年は合成ピレスロイド剤散布(黒矢印)]のリンゴ葉(上図)に下草(下図)におけるナミハダニとカブリダニ類の発消長. . リンゴ葉は1週間毎にそれぞれのほ場(約10a)のリンゴ6樹から20葉ずつ採取し, 寄生個体数を調べた. 下草は1週間毎にリンゴ葉を採取した6樹冠下の下草(1区画: 1 × 1m)をクリーナーで吸引し, 捕獲された個体数を調べた. 白矢印は殺ダニ剤散布を示す.

[発表論文等]

Funayama K (2015) Appl. Entomol. Zool. 50: 169-174.